

☆被災地の歴史資料・文化財の保全、震災の経験の記録化と保存!!
★幅広いネットワークづくりを通じて、歴史・文化を復興に活かす!!
☆被災地から全国へ、歴史学と社会をめぐる普遍的な課題へ!!

史料ネット News Letter

第69号 2012年5月18日(金)

発行：歴史資料ネットワーク

特集 宮城資料ネットの被災歴史資料保全活動



▲史料ネットスタッフによる処置＝2011年4月15日、天野真志撮影



▲被災したふすまの解体作業＝2011年7月6日、同撮影

CONTENTS

- 巻頭言
史料ネットの活動にふれて———澤井 廣次 (2)
- 特集 被災歴史資料保全とボランティア———天野 真志 (3)
被災史料救援活動参加記 ———達本 愛 (6)
- 兵庫区歴史講演会「清盛塚からみた兵庫」———吉原 大志 (8)
- 兵庫区歴史講演会に参加して———豊田 通子 (9)
- 神戸・阪神歴史講座のご案内———(10)
- 2011年東日本大震災被災資料救出活動支援募金ご協力の御礼———(12)

史料ネットの活動にふれて

澤井 廣次

史料ネット運営委員の澤井です。何を書いてよいのやら皆目分かりませんが、今までを振り返る形で感じたこと・思ったことを述べさせていただきます。まとまりのない文章ですが、少しお付き合いください。

私は阪神・淡路大震災を地元奈良県で体験しました。ただ、体験したと言っても被害は非常に小さく、当時小学生だった私にとって神戸は遠い場所だったこともあり、「体験者」「当事者」意識は全くありませんでした。私の記憶に残っている阪神・淡路大震災と言えば、数度にわたって、小学校におにぎりを持参し、それをヘリコプターに詰めて神戸に送ってもらった、という程度です（何回目か以後は、おにぎりにはふりかけをかけない、梅干しも入れない、いや梅干しは良いとか細かい決まりがころころと変わっていったことは覚えています）。ただ、同時期に起こったオウム事件などもあり、その程度の記憶しか残っていません。そのため神戸に来る前の私は、史料ネットの存在や震災における資料保全活動などの様々な活動をほとんど知る由もなかったというのが正直なところではあります。

そんな私が、勉強の場を神戸に移して約4年、史料ネットに関わって約2年。この期間に多くのことを学びました。特に、私の中では東日本大震災に際してお手伝いさせていただいた事務局作業の経験が強く印象に残っています。会員の方々はもちろん、非会員の方々も広くボランティア活動や財政的なご支援をいただき、いかに史料ネットの活動及び資料保全活動が裾野の広いものであるかを感じました。また、被災地で精力的に活動する各地資料ネットのボランティアにも何度か参加させていただきました。微力ながら支援活動をさせていただくと同時に各地資料ネットの活動に触れることで、資料レスキューやクリーニング作業など学ぶことが多くありました。いつか来るどこかの災害の際に、その経験を活かしたいと思っています。

ただ、当然ですが、東日本大震災や2011年台風12号災害は終わっていません。東北はもちろん、関東でも東日本大震災からの復興には時間がかかりそうです。茨城県では現在も家屋解体が行われていますし、千葉県では昨今の「余震」によって再液状化が発生したと聞きます。また関西に目を移しますと、2011年台風12号の傷跡がまだ癒えていません。和歌山県では災害に関わる資料保全活動が継続的に行われていますし、私の地元奈良県の被災地も今年の2月によりやく警戒区域が全面解除され、迂回路の設置によって通行規制が緩和されつつあるという状況です。

このような状況ですので、史料ネットは支援活動を今後も継続的に行っていくことになると思います。また同時に、宮城資料ネットなど各地資料ネットの活動を通じて、災害前の資料保全活動の重要性を私たちは改めて学びました。今後はいろいろな方面との連携を深め、日常時における資料保全活動にもより精力的に取り組まねばいけません。そのような活動を皆様とともに進めていくことができればと思っています。

最後に、私事で恐縮ですが、今年度をもって学会からの出向委員という形を終えることとなりました。この間、個人・家・地域の資料を残し、未来へ伝える活動に関われたことに大変感謝しています。ただ、神戸にいる間は今までと同様に史料ネットの活動に携わっていきたくて、今後もそのような活動を長く続けていけたらと思っていますので、今後とも何卒よろしくお願いいたします。

(さわい・ひろつぐ／歴史資料ネットワーク運営委員)

被災歴史資料保全とボランティア

天野 真志



活動概要

NPO 法人宮城歴史資料保全ネットワーク（以下、宮城資料ネット）では、2003 年に発生した宮城県北部地震以来、宮城県域に伝存する歴史資料の保全活動を実施している。

東日本大震災は、北関東から東北地方太平洋沖沿岸部全域に甚大な津波被害をもたらした。それにともない、各地で膨大な数の歴史資料が津波による消滅の危機に瀕している。宮城資料ネットでは、4 月以降宮城県内を中心に被災各地を調査し、被災資料の救済活動を実施している。その一方で、救出した被災資料のうち、津波被害を受けた資料のクリーニング作業をおこなっている。

宮城資料ネットが救出した津波被災資料は、12 月までの段階で救済資料全体の 75%に相当する約 21000 点にのぼり、緊急処置を要する膨大な資料が事務局に保管されることになった。そのため、速やかに処置を施すために多くの人的支援が必要となり、6 月から事務局を置く東北大学での資料クリーニングボランティアを募ることになった。

ボランティア作業は、主に津波で被災した資料の乾燥、泥落としおよびカビ抑制のためのエタノール噴霧、塩分除去を目的とした洗浄作業である。水濡れの激しい資料については、冷凍措置を施したのち、奈良文化財研究所ないし東北芸術工科大学へ真空凍結乾燥処置を依頼している。一連の作業を終えたのち、整理作業を実施し、記録化のためのデジタル撮影をおこない、所蔵者へ返却することになる。



▲被災した宮城資料ネット事務局＝2011 年 3 月 11 日、天野撮影



歴史資料ネットワークからの支援

3 月 11 日に被災して以降、歴史資料ネットワーク（以下、史料ネット）からは多大な人的および物的支援を受け、密接な連携体制を築くことができています。

史料ネットからは、多角的な支援を受けている。まずは活動資金の援助である。被災直後から史料ネットでは、各地に被災地支援のための寄付金を募っており、宮城資料ネットは、そこに寄せられた寄付金の一部を、3 月 16 日から現在にいたるまで、合計 10 度の支援をうけている。

また、スタッフを派遣することによる技術支援も受けることができた。4 月 13 日から 16 日にわたり、スタッフが仙台に派遣され、宮城資料ネットが初めて受け入れた津波被災

資料の処置が施された。その後も定期的にスタッフが派遣されることで、大量発生した津波被災資料の迅速な処置について、技術的な相談を密におこなうことができた。

広報活動においても、史料ネットから協力を得ることができている。吉川圭太「宮城を訪れて一現地レポート」（『史料ネット News Letter』66号、2011年5月）を皮切りに、仙台を訪れたスタッフによる詳細なレポートが各地に発信された。これらの紹介を通して、全国各地に被災地の現状と宮城資料ネットの活動が知られることになった。

宮城に限らず、被災各地の後方支援を実施している史料ネットを通して、各地の被災地の現状や課題、活動内容などが宮城に伝えられる。上記の支援に加え、被災各地を取り結び、広域的な連携・被災対応を実現する役割として、史料ネットの存在は大きいものがある。



▲史料ネットスタッフによる被災資料の洗浄＝2011年7月27日、天野撮影



ボランティア活動と助成事業

宮城資料ネットでは、作業に応じて随時ボランティアの募集をおこなっている。ボランティアの種類としては、（１）被災地における資料救出作業、（２）事務局における被災資料クリーニング作業の２種類に大別される。

- （１）の作業は、消滅の危険性がある歴史資料の存在が確認された際、宮城資料ネットのメールニュースにより、ボランティアを募っている。
- （２）の作業については、津波被災資料が大量に事務局へ搬入されるようになった６月以降、常時ボランティアを募集している。こちらの作業は、１２月末段階で１１９日のボランティア作業を実施し、延べ７５６人の参加者を得ることができた。

被災資料が大量に確認されるようになって以後、主なボランティア募集は、事務局におけるクリーニング作業が対象となっている。４月以降、各地で津波被災資料が大量に確認され、速やかに処置を施す必要があった。そのため、大量動員型による的確な処置作業が求められた。しかし、北関東から東北地方太平洋沖一帯にわたる広域的な津波被害、それにとまなう膨大な数の歴史資料の被災という、過去に例をみない状況に際し、資料のクリーニング作業は困難を極めた。

大量の被災資料への対応に際しては、各所との連携が大きな役割を果たした。まず、奈良文化財研究所や東北芸術工科大学からは、いち早く真空凍結乾燥の申し出を受け、大量発生した津波被災資料の処置に関する援助を得た。また、京都造形芸術大学からも、技術支援から物的支援にいたるまで、様々なかたちで支援を受けている。

さらに7月には、被災した紙媒体資料の救済・復旧を支援するボランティア組織、東京文書救援隊から、「東文救システム」と呼ばれる被災資料の大量洗浄方法について技術支援を得ることができた。

一連の技術支援を得ることにより、宮城資料ネットでは、状況に応じた処置作業を実施している。現在も模索は続くが、こうした支援に支えられることによって、多くのボランティアを受け入れ、多様な性格を持つ被災資料への大量処置が可能となっている。

史料ネットが稲盛財団および企業メセナ協議会から助成金を受けたことにより、8月以降史料ネットが取りまとめたボランティア希望者への助成事業が開始されることになった。現段階で宮城資料ネットのボランティアに対しては、事務局でのクリーニング作業について3回（延べ10名）、被災地での作業について1回（7名）の、合計4回（延べ17名）にわたる援助を受けることができた。



▲助成事業によるボランティア＝2011年10月25日、天野撮影



ボランティア助成の成果と展望

現在、宮城資料ネットで実施している作業には、歴史関係者に留まらず、市民も含めた幅広い参加者が集まっている。

ボランティアに参加した方の多くは、仙台市内在住の主婦や60～70代のシニア層であった。仙台市博物館で日常的にボランティアガイドをおこなうグループなど、地域の歴史に関心を持つ市民が被災資料クリーニング参加の申し出をうけた。また、被災地への支援を望むものの、瓦礫撤去などの肉体労働に不安を持つ多くの市民がボランティアに訪れ、現在に至るまでクリーニング作業の主体的役割を果たしている。



▲被災歴史資料のクリーニング＝2011年8月23日、天野撮影

こうしたボランティア参加の理由として、顕著な傾向としてみられたのは、歴史資料に対する関心と被災地支援に対する欲求であった。こうした数多くの市民ボランティアを受け入れるにいたったのは、仙台市史編さん室などで主催する市民講座での呼びかけや、関係者からの紹介が背景にあった。多くの窓口を設けることで、幅広いボランティア希望者から関心を得ることができた。その意味では、ボランティア助成という事業も、遠隔地からのボランティア窓口として、大きな役割を果たしているといえる。

添田仁「東日本大震災 歴史資料を守る人を支援するために」（『史料ネット News Letter』68号、2012年1月）では、遠隔地からのボランティア参加者を資金的に援助する仕組みとして、その意義を指摘している。それに加えて、今回のボランティア助成事業は、被災資料ボランティアという存在を全国に周知する役割を担いうる存在でもある。そのために、助成事業には、より広範囲の参加者が応募できる仕組み作りを期待したい。

宮城資料ネットは、今回のボランティア助成事業をはじめ、各地からの多大な支援を得ることができた。末筆ながら厚く御礼申し上げるとともに、今後ともご支援・ご協力をお願いしたい。



▲被災資料の洗浄(左)と補修作業(右) =2011年11月25日、天野撮影

(あまの・まさし／東北大学災害科学国際研究所、
NPO法人宮城歴史資料保全ネットワーク事務局)

被災史料救援活動参加記

遠本 愛

2011年10月25日～27日の3日間、歴史資料ネットワークによる旅費助成制度を活用し、宮城歴史資料保全ネットワーク（東北大学）での被災史料のクリーニング・整理作業に参加した。

今回参加を決めるにあたって、ひとつ気にかかっていることがあった。それは、歴史史料知識の圧倒的な不足である。事前に救援方法に関する簡単なワークショップは受けていたものの、史料の読み解き方、価値にいたってはほぼ知識が無い。そんな人間が、専門家の介入も十分とは言えない今、この活動に携わってもよいのだろうか、あるいは、貴重な史料に触ることに対してどんな反応があるのだろうかという不安が常にあった。

作業にとりかかってみると、担当する史料にはカビや泥の浸食で紙の劣化が激しいものが多くあり、被災史料の取り扱いの難しさを改めて実感した。泥が紙の繊維に絡みついており、きれいに取ろうとすると紙の繊維が傷んで毛羽立ってしまったり、カビで紙自体が傷んでおり、泥を落とそうとすると虫食いのような細かな円形の穴が複数あいてしまったり（カビの浸食が目視できなくても、こすると円形の細かい穴が空くものもあった）といった具合で、なかなか作業が進まなかった。劣化の激しい史料は本当にもろく、筆でこすっただけでも穴が空くようなものもあった。どのくらいの強さでこすると紙に穴があくのか、あるいは史料の損傷具合や汚れと使う道具の兼ね合いなどは、実際にやってみないと正直なところ分からなかった。

黙々と泥を除去している間に時間はあっという間に過ぎ、1つの史料を仕上げるだけで何時間かかってしまった。2日目、3日目は徐々にペースを掴んでいったが、この作業自体そんなにスムーズに進行するようなものではないことが分かった。ワークショップでは主に史料の洗浄・乾燥の



▲資料に付着したカビ

ことを習ったので、泥を落とす行程にこれほど時間がかかるとは思っていなかった。その時、この作業には絶対的に人手が必要だと実感し、不安はひとまず置いておいて、分からないところは専門の方に質問しつつ、とりあえずやれることを精一杯やろうと思った。幸い、小さい事でも分からないことを尋ねると丁寧に教えて頂けたので、作業が大変進めやすかった。

また、作業の合間に、この史料にはこういうことが書いてあるということを教えていただけたことが嬉しかった。その史料がどんなものか分かった瞬間、「誰かの何が」でしかなかったものが、“自分に語りかけてくる”ものとして認識できるようになることを初めて知った。これは自分にとって大変新鮮な体験であり、先の見えない作業を続行していく上での大きなモチベーションにもなった。史料は単なるモノではなく、人が生きた痕跡そのものなのだと実感できた貴重な体験であった。

作業中に特に意識していたのは、「どこまできれいにすれば良いのか」ということである。私の担当した史料は書が主であったのであるが、これは書かれていることが読めれば史料として価値を持ちうるのか、あるいは周辺の余白の部分（この部分の損傷が激しい史料が多くあった）も含めて初めて作品と言えるのかということが気にかかった。素人が下手にいじって



▲ボランティアによる泥落とし作業

ボロボロにしてしまってもいけないとも思ったが、持ち主に返却する場合を考えたら、可能な限りきれいにするのが理想ということもうかがったので、そこがところが一番難しく感じた。きれいにすることと紙へのダメージの両方を天秤にかけ、どこでやめるか判断する基準というのは非常に感覚的なものであり、その感覚はある程度場数を踏まないとなかなか身についてこないのではないかと思った。

そう考えると、史料は一点一点違う価値を持っているという点で、史料救援活動に素人が参加することは大変危険であると言えるかもしれない。しかし逆に考えれば、何度か参加できるような機会があれば、素人でも作業は手伝えるようになるということもできる。

関係者の方が、これらの史料をレスキューし終えるには6、7年、あるいは10年以上の長い年月かかるということ、また、そういった莫大な数の史料を保存していくのは専門家の手だけでは限界があり、いかに一般市民が史料に価値を見出し、保存していこうというようにしていくことが今後の課題であるということを言っておられた。

今回、このような機会を設けてくださったことによって、普段は関わりのない分野の関係者の方々からお話を聞くことが出来、新しい視点をいくつも得ることが出来た。また、私は自分のことを素人と形容したが、今回扱った史料を残し、扱ってきた人々は、決して専門家に対してその史料を残したわけではなかった。歴史や文化というものが主に専門家の手に委ねられているという、現在の状態がある種異常であるということに気づかされた。このことは、自分にとって大きな衝撃であった。たった3日間であったが、学ぶことの多い貴重な3日間であった。

追記：今回の被災史料レスキュー・整理活動への参加にあたっては、稲盛財団「東日本大震災復興ボランティア助成制度」で、旅費の一部を助成していただきました。ここに記して謝意を表します。

（つじもと・あい／大阪大学人間科学部4回生）

兵庫区歴史講演会

「清盛塚からみた兵庫」

吉原 大志



▲約300名の参加者で会場はほぼ満席

2012年2月18日(土)、兵庫公会堂において、兵庫区民まちづくり会議「平清盛ゆかりのまち」発信事業実行委員会・兵庫区・史料ネットとの共催による兵庫区歴史講演会が開催された。毎年、史料ネットと兵庫区とのコラボレーション企画として行っているこの講演会は、これまで兵庫津に関わるテーマを設定してきた。今年はNHK大河ドラマ『平清盛』の主要な舞台が兵庫の地であるということもあり、清盛塚をひとつのテーマとして設定し、そこからわかる兵庫の歴史に焦点を当てた構成となった。

講演会に先立って、桂三ノ助氏による創作落語「平成の清盛―福原遷都物語―」が披露された。三ノ助氏は自身が兵庫区民であり、日ごろから兵庫区内を中心に地元密着の活動をされている。落語の内容も、ユーモアたっぷりに平清盛その人の歴史について解説しながら、兵庫区民の方々にとってなじみ深い地名を織り交ぜた「ご当地ネタ」で会場を大いにわかせた。

続いて史料ネット代表委員・奥村弘から「もう一つの清盛―地域歴史遺産としての清盛塚―」と題する講演が行われた。「清盛その人の歴史」とともに、「清盛をめぐる地域の歴史」がある。兵庫の清盛塚は、地域の人々が歴史のなかで清盛をどのように捉えてきたのかを示す、それじたいが地域の歴史遺産であるとの内容であった。

また史料ネット副代表・藤田明良の講演「清盛塚の誕生―中世兵庫津の歴史―」では、中世に兵庫を訪れた亀山上皇・叡尊・一遍を軸に、清盛塚の成立経緯と、それが清盛の墓であるとする清盛塚伝承の形成過程を展望した。そして吉原は「清盛伝説と神戸市民―清盛塚の移転―」と題し、大正期神戸の都市計画事業のひとつである市電敷設にともなう清盛塚移転問題についての講演を行った。

参加者はおおよそ300名で、例年の講演会同様、参加された方々の歴史に対する熱い意欲が伝わってくるとともに、大河ドラマ放映によって清盛への関心が高まっていることがうかがえた。

十三重の石塔である清盛塚には、黒くすすけた部分がある。これは1945年の神戸大空襲の際に焼夷弾による油煙が付着したものである。またところどころ欠けている部分があるのは、1995年の阪神・淡路大震災のときに倒壊したためである。つまり清盛塚は、清盛が生きた時代のみならず、戦災や震災といった幾重にも折り重なる兵庫の歴史を今に伝える地域の歴史遺産である。



▲奥村弘氏の講演のようす

考えてみれば、この講演会で清盛自身の歴史について言及したのは、桂三ノ助氏の落語のなかにおいてのみであり、後半の講演は、清盛の歴史そのものを語った内容ではなかった。大河ドラマの関係で神戸市内ではほぼ毎月、清盛に関する各種の講演会が開催されているが、清盛をテーマとしながら清盛自身の歴史に触れない講演会は、おそらくこの講演会だけではないだろうか。来場者のなかには清盛の歴史に関する講演が聴けず期待外れた方もいたかもしれない。それでも、地域の歴史を今に伝える清盛塚という歴史遺産が、兵庫の街にあるということが、少しでも伝われば幸いである。

(よしはら・だいし／歴史資料ネットワーク運営委員)

兵庫区歴史講演会に参加して

豊田 通子

2月18日（土）に開催された兵庫区歴史講演会に参加した。まず、講演会が想像以上に盛況であることに驚いた。また、会の冒頭で、予定されていた講演の一つが止む無く中止になったとアナウンスされた時には、参加された方々から嘆息とも歎声ともつかぬ声が漏れ、参加された皆さんの熱意を垣間見た思いがした。

最初に、桂三枝師匠門下の桂三ノ助さんの落語があった。枕での話によると三ノ助さんは滝川高校出身で、在学中は野球部に所属しておられたとか。私は愚息が高校まで野球を続け、滝川高校と対戦した折にスタンドで同高野球部の強さを思い知らされた経験がある。そんな私にとっては、大柄な三ノ助さんが滝川高校野球部の強さを体現されているような印象を受けて、ほんの僅かな威圧感を抱いた。が、清盛についての創作落語を聞いているうちに、三ノ助さんに地元に関する更なる創作落語を期待して、心からの声援を送りたいと思った。

休憩をはさんで、講演会のプロローグとして奥村弘氏から、地域歴史遺産の説明があった。それは地域の核となる文化遺産のことであり、平清盛に関して言えば、地元の人々の生活・意識の中で生かされてきた清盛も文化遺産であること、それらを文化遺産と再認識し守り伝えていくことが重要であると説かれた。続いて、藤田明良氏から、鎌倉時代後期における兵庫津と「清盛塚」伝承の始まりについて、そして吉原大志氏から、大正時代の都市計画（市電拡張）によって生じた清盛塚移転問題をめぐる市民意識について、講演が行われた。清盛塚が、それぞれの時代においてどのような存在であったのかがよくわかって、とても有意義な時間を過ごした。

私も神戸市民だが、近年造成された新興住宅地に住んでおり、地域の歴史を意識する機会は少ない。

講演を聞きながら、清盛塚という中世以来の文化遺産とともに生きてこられた兵庫区民の皆さんに羨望の思いを抱いた。しかし、奥村氏の説明に依るならば日本の多くの場所に文化遺産は存在する。居住する場所・期間に関係なく、住む者の意識のありようが重要であることを痛感し、今まで自らの地域の歴史遺産に深く目を向けてこなかったことを恥じた時間でもあった。清盛塚のような文化遺産を守り語り継いでいくことは勿論、見過ごしてしまいがちな地域の遺産を意識的に認識することの重要性も痛感した。そして、地域の文化遺産と、現在の地域の関わり方を考え模索していくことが居住する者に課せられた問題だと思った。

(とよだ・みちこ／神戸大学大学院生)

神戸・阪神歴史講座 第六回

のじぎく文庫『神戸～尼崎 海辺の歴史』 出版記念企画



古代から現代まで、多様な歴史に満ちている神戸・阪神地域。同時にこの地域は、その多様な歴史を掘り起こし、現在に活かす営みが積み重ねられてきているエリアでもあります。

この神戸・阪神地域の歴史を学ぶ連続市民講座として、2010 年度から実施してきた本講座をもとにした『神戸～尼崎 海辺の歴史』(1,700 円、税別)が、このほど「のじぎく文庫」から出版されました。

今回は、この出版を記念して、講演会を企画しました。神戸・阪神地域の歴史に関心を持ち、学びたいとお考えのみなさんのご参加をお待ちしています。

- 日 時** 2012年6月17日(日) 午後1時30分～3時30分
- 場 所** 神戸市立博物館講堂
(西側通用口からの入館となります。裏面地図をご参照ください)
- 主催(共催)** 神戸史学会 神戸市立博物館 サロン・ド・サモン
- 後 援** 歴史資料ネットワーク 神戸大学大学院人文学研究科地域連携センター
- 講 演** こうのみお **河野未央** (近大姫路大学教育学部助教)
「海辺の支配と神戸～尼崎」
つじかわ あつし **辻川 敦** (尼崎市立地域研究史料館長)
「臨海工業地帯の歴史地理―神戸と尼崎の比較研究―」
- 参加方法** 定員先着150人、参加申込み期間中に下記までお申し込みください。
- 参 加 料** 500円(博物館常設展、企画展示「大正時代～小旅行～阪神名勝図絵～」を、別途料金不要にてご観覧いただけます)

〔参加申し込み先〕

6月1日(金)以降、先着順150人まで受け付けます。e-mailまたはFAXにてお申し込みください。期間前のお申し込みはご遠慮ください。

e-mail kobe_hanshin_history-owner@yahooogroups.jp

(神戸・阪神歴史講座の Web サイト http://homepage3.nifty.com/koko-legend/kobe_hanshin_history/にも上記 mail アドレスを掲載しています)

Fax 050-3737-2371

FAX 用参加申込票 (e-mail の場合も以下の項目をお知らせください)

お名前	お電話番号	FAX 番号

〔神戸・阪神歴史講座第六回会場＝神戸市立博物館講堂〕



〒 650-0034 神戸市中央区京町 24 電話：078-391-0035 FAX：078-392-7054
講座に参加される方は、博物館西側の通用口よりご入館ください!!

- 新幹線「新神戸」から南へ車で約 10 分
- 神戸空港からはポートライナーで約 18 分、「三宮」下車
- JR「三ノ宮」、ポートライナー・地下鉄(山手線)・阪急・阪神「三宮」から南西へ徒歩約 10 分
- JR、阪神「元町」から南東へ徒歩約 10 分
- 地下鉄(海岸線)「旧居留地・大丸前」から南東へ約 5 分

博物館に駐車場はありません。お近くの有料駐車場をご利用ください。

- P 1 デビスパーキング Tel.078-331-1257
- P 3 神戸市立三宮第2駐車場 Tel.078-391-5513
- P 4 三宮中央通り駐車場 Tel.078-333-3388
- P 5 パーク神戸中央
- P 6 ミスターP神戸旧居留地駐車場 Tel.0120-533-350
- 中央ターミナルバス駐車場 Tel.078-351-6310

神戸市立博物館にご連絡されても、参加申し込みはできません。参加ご希望の方は、かならず左頁(P10)記載の申し込み先にメールまたはFAXをお送りください。

2011 年東日本大震災被災史料救出活動支援募金ご協力の御礼

歴史資料ネットワーク

○支援者一覧（敬称略・順不同・2012 年 1 月 11 日～2012 年 4 月 9 日現在）

鈴木哲雄、源健男、岩橋清美、首藤ゆきえ、松田暁子、今井典子、岡美江、歴史科学協議会、大益知佳

※この間、稲盛財団「東日本大震災復興支援ボランティア助成制度」（2011 年 8 月～2012 年 7 月）、
ならびに企業メセナ協議会「東日本大震災 芸術・文化による復興支援ファンド」（2011 年 9 月～2012
年 3 月）からの助成を受け、多くの被災資料救出ボランティアを被災地に派遣することができました。
この場をかりて、お礼申し上げます。

2012年度歴史資料ネットワーク総会・シンポジウムのご案内

2012年7月8日(日) 於:神戸大学梅田インテリジェントラボラトリ

午前:総会

午後:シンポジウム

○白井 哲哉氏(茨城史料ネットワーク)

○白水 智氏(地域資料保全有志の会／長野県栄村)

ほかの講演を予定しています。

◆シンポジウム企画趣旨◆

震災から1年を経たいま、被災地の保全活動の現状と課題を考える。

☆詳細は決定次第、史料ネットブログ(http://blogs.yahoo.co.jp/siryo_net)に掲載いたします。

史料ネット NEWS LETTER No.69 2012年5月18日発行

編集・発行 歴史資料ネットワーク

〒657-8501 神戸市灘区六甲台町 1-1 神戸大学文学部内 史料ネット

TEL&FAX:078-803-5565 (開室時間 平日の午後1時～5時)

e-mail:s-net@lit.kobe-u.ac.jp

被災史料救出活動のようす・詳細は日々ブログに更新しています。

http://blogs.yahoo.co.jp/siryo_net